

学校支援を積極的に進める

学校の教育活動を支えるPTA活動

豊明市立栄中学校PTA

1 はじめに

本校は、全校生徒 554 名、18 学級、PTA 会員数 520 名の中規模校である。校訓「行学一体」の精神を基盤に、心豊かで実行力のある人格の形成を目指して、健康で何事にも耐えぬく（耐力）・自ら考え、進んで学ぶ（自学）・礼儀正しく、秩序を重んずる（礼節）中学生を育成するよう、日々教育活動を進めている。校区は豊明市の南に位置し、旧東海道が通る歴史のある地域で、阿野一里塚や桶狭間古戦場などの史跡がある。また、保護者が本校卒業という方が多く、学校に対してたいへん協力的な地域である。

2 研究への取組

(1) 研究のねらい

本校PTAは、以前から登下校の見守り活動や学校行事等、積極的に活動している。しかし、次第に共働きの家庭も増え、生活様式や考え方も多様になり、PTAの活動をはじめ、学校行事や地域行事への参加に負担を感じる家庭も増えているように思われる。また、コロナ禍の新しい生活様式の中で、PTA活動のあり方についても見直す必要に迫られた。

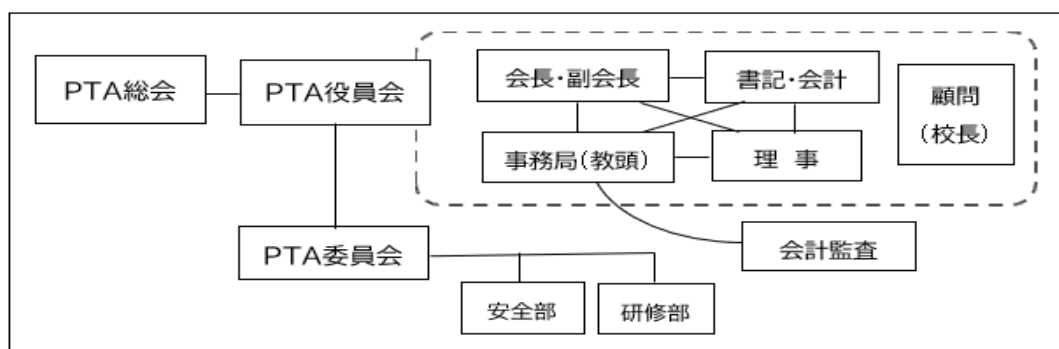
今年度、愛知県小中学校PTA連絡協議会から学校支援推進の研究委嘱を受けた。そこで、保護者の負担感軽減を図りながら学校にどのような方法で支援ができるかについて、研究に取り組むことにした。

(2) PTAの組織

会長、副会長の他、約30名の委員が「安全部」と「研修部」のいずれかに所属し、学校支援を行っている。



【栄中学校の校舎と校訓碑】



【PTA組織図】

3 実践活動の概要

(1) 安全な登下校への支援

① 防犯ブザーの導入

片道約40分かけて登校する生徒もいる本校では、「日が短い季節の登下校は、家に帰り着くまでに暗くなってしまうことがあり心配だ。」という声が以前からあり、PTAでは、全生徒への防犯ブザーの配付を検討していた。

今年度は4月から学校が休業となり、5月末、新しい生活様式での学校再開となった。登下校時の密集を避けるために、はじめ2週間は、全校生徒が午前と午後に分かれての登校となった。さらに昇降口や手洗い場など、校舎内で密集にならないように、登校時間を拡大し時差登校を呼びかけた。それに伴い、登下校時、周りに人がいない時間が長くなる生徒が増え、不審者などの心配が増した。

そこで、PTAと生徒会からの補助を受けて、学校再開に合わせて全校生徒に「防犯ブザー」を配付することにした。この防犯ブザーは、いざというときに通学用リュックの使いやすい位置に取り付けられることや、操作が簡単で音が大きいなど機能性を重視して選定することにした。また、生徒に受け入れられるデザインであることも考慮した。全員に配付したことで、登下校時の心配をしていた生徒は、安心して翌日からこの防犯ブザーを身に付けて登校した。「中学生になって、通学班のない登校も防犯ブザーがあると安心。」「小学生の頃付けていたブザーより、いざというときに使いやすいような形だ。」などの声があった。現在、「自分の身は自分で守る」という意識向上の面でも効果的である。

② 登校あいさつ活動

例年、学期に1回ずつ安全部を中心に行っている活動である。しかし、今年度は学校が休業になっていた期間も長く、7月から再開した。挨拶に立つPTAの役員や委員もマスクを着用し、ソーシャルディスタンスを確保しての活動であった。それでも、参加した委員の方々からは「久しぶりに学校に来て、子どもたちの登校の様子が見られてよ



【通学用リュックに取り付けられた防犯ブザー】



【防犯ブザーを付けて登校する生徒】

かった。」「おはようございますと声をかけると、にこやかに挨拶を返す生徒に安心した。」などの意見が聞かれ、互いに顔を合わせることの大切さを改めて感じる事ができた。

(2) 学校行事への支援

① 体育大会

9月末に感染予防対策を講じながら、体育大会を実施した。その中で保護者の参観について、一家庭一名までとし、PTAの役員・委員は、保護者のマスク着用やソーシャルディスタンスの確保を呼びかけることにした。

ソーシャルディスタンスの確保のために、極力日傘を利用するように事前に呼びかけたり、大きな声での呼びかけを避けるために、4種類の看板を掲げながら巡回したりすることで、密集することを防ぐように工夫した。活動時間を区切り、分担して活動することにしたが、担当でない時間帯も気になるときには呼びかけた方がよいという意見が多く出た。そこで、看板は持ち運びやすいA4サイズとし、個々が持ち歩き、適宜使用できるようにした。

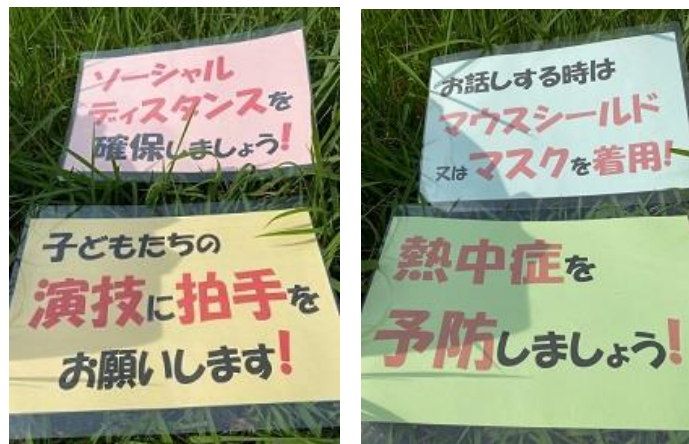
これらの工夫が功を奏し、大きな問題もなく、無事に体育大会を支援できた。PTAの役員・委員の方々の楽しそうに活動する姿から、学校行事に子どもたちと一緒に参加しているという満足感が伝わってきた。また、同じ目標をもって一緒に活動することで、役員・委員どうしのつながりが生まれたようにも感じられた。



【日傘利用で参観する保護者】



【看板を掲げて呼びかける
PTA委員】



【呼びかけ用の4種類の看板】

② 文化祭

体育大会に続き、10月末の文化祭・合唱会の保護者の参観について検討した。会場が体育館や校舎内であるため、例年見やすい座席を確保しようと、受付開始前から長い列ができる。これを解消するために、事前申込みで座席指定制とした。また、保護者に安心して参観してもらえるように、今回もPTAの役員・委員がマスク着用の呼びかけや受付での検温・手指消毒を担当した。

PTAの役員・委員の取組で、多くの保護者が安心して生徒の発表を参観したり、作品展示を鑑賞したりすることができた。文化祭の成功にPTAの存在感を改めてもつことができた。



【会場の外でソーシャルディスタンスなどを呼びかけるPTA役員・委員】



【参観者の検温をするPTA委員】

4 おわりに

この研究を通して、PTA活動は、コロナ禍での学校を支援していると改めて認識することができた。また、共働き家庭も多い中で、内容を精選し多くの時間を取られないような方法を工夫していくことも大切だと感じた。「無理せず、できることを、できる人で」をモットーとして活動し、それが子どもたちや学校の支援につながっていることを肌で感じることができた。さらに、PTA役員・委員を楽しみながらという気持ちが大きな原動力となり、「PTA役員や委員をやってよかった。」「PTA活動に参加してよかった。」と実感した。

今後もPTA活動の充実・発展を図り、学校のよきパートナーとして子どもたちの健やかな成長を支えていきたい。



【受付の様子】